

平成18年度

施政方針

7つのやさしさを柱に

本日ここに、平成18年度の当初予算をはじめ、諸議案を提出するにあたりまして、私の町政運営に対する所信並びに予算の概要についてご説明申し上げ、議員各位をはじめ町民の皆さんのご理解とご協力を賜りたいと存じますが、その前に、この度、元職員の不祥事によりまして、議会をはじめ、町民の皆様にも多大な迷惑をおかけしましたことを心から深くお詫び申し上げます。

現時点で、事件の詳細は明らかになっておりませんが、公正であるべき行政の執行におきまして、公務員としてあるまじき行為を行ったことは、真に遺憾であり、許されるものではありませんし、町制50周年記念事業として開所の完全復元に町をあげて取り組んでいただけに大きな汚点を残すもので真に残念であり、痛恨の極みであります。

早速、緊急部課長会議を招集し、注意と自覚を強く求めたところであります。

今後は速やかに原因の究明に努め、職員一丸となって、信頼の回復に全力で取り組んでまいり所存であります。ここに改めてお詫び申し上げます。

では、町内の高校生が昨年の全国高等学校総合体育大会で、八ノマー投げ、登山、柔道で大活躍されたことやイタリア・トリノで開催された冬季オリンピックでは神奈川県出身の荒川静香さんがフィギュアスケートで金メダルに輝くなど、最後まであきらめず、全力を尽くす「選手姿勢に感動を覚える」とともに、大きな勇気を与えられたものがあります。

昨年を振り返って見ますと、予期しない出来事が目立った一年であつたように思います。町内においては、台風11号による町営温泉施設、学校教育施設への被災、国内に目を向けると大雪による被害、幼い子どもを狙った凶悪犯罪、鉄道事故、耐震偽装問題、さらに、海外においても大型ハリケーンや相次ぐテロなど、多発した事件、事故は真に残念でなりません。

さて、本、平成18年は、昭和31年に箱根町が誕生して50年、国立公園の指定70周年という記念の年であります。この間、箱根町は、四季折々に美しい表情を見せる山々や豊かな温泉に恵まれ、多くの観光客をお迎えする国際観光地として発展してきました。

こうした中、スポーツにおいて、先人のたゆまぬ努力と知恵に敬意を表するとともに、この記念すべき年に町政を担当できま

行いました。内容といたしましては、前年度に引き続き、議会議員および特別職の期末手当の削減のほか、人事院勧告に伴い調整手当を廃止し新たに地域手当を導入することになりましたが、この支給率についても削減を行い、さらには、退職者補充は最小限にとどめ、一般会計では1億8,600万円の財源を確保いたしました。

財政・予算

まず、歳入であります。歳入の主体となります町税のうち軽自動車税は前年を上回る見込みですが、基幹税目であります固定資産税が、土地価格の下落が止まらない中、3年に1度の評価替えに伴い1億5,670万円もの減収となるなど町税全体では前年度に比べ、2億3,400万円、3・5%の減収の見込みであります。

また、その他の収入につきましましては、箱根関所が一般会計の管理となることから使用料が増えることや、三位一体改革により所得譲与税が増えますが、国の制度改正や税源移譲による国および県補助金の変更や廃止などにより、一段と厳しい状況

となつたものであります。そのような中で、職員の削減や経常的な事務事業の見直しを徹底し、政策的経費などへの財源の確保に努めましたが、財源不足が生じたため臨時財政対策債の借入れにより財源の確保を図つたものであります。

下水道事業特別会計においても公債費償還の財源として、本年度も資本費平準化債を2億7,000万円借入れ、一般会計からの繰出金を削減しました。

一方歳出につきましては、経常的な経費の削減に努めるとともに、人件費についても削減を

その結果、予算規模は一般会計で86億3,000万円となり前年度と比較しますと4億4,000万円、4・9%の減となつたものであります。特別会計の予算規模は、合計で56億4,077万円、前年度と比較しますと2億9,915万円、5・6%の増となり、水道事業会計では8億4,270万円、2・520万円、3・1%の増となるものであります。

なお、一般会計、10特別会計、水道事業会計を合わせた総額は151億1,347万円となり前年度と比較しますと1億1,565万円、0・8%の減となつたものであります。

以下、「美しくやさしい箱根に」を目標とした7つのまちづくりの関連事業について申し上げます。

すことは大変光栄であり喜びとするところであります。

なお、町制施行の9月30日には記念式典を開催し、町民皆さん一人ひとりと喜びを分かち合つて行きたいと思ひます。

いすれにいたしまして、町民皆さんの付託を受け、美しくやさしい箱根に」を目標として、

一つとして、「子育てにやさしいまちづくり」

二つとして、「健康で生きがいとやさしさのあるまちづくり」

三つとして、「安全・安心のまちづくり」

四つとして、「住まう人にやさしいまちづくり」

五つとして、「訪れる人にやさしいまちづくり」

六つとして、「自然にやさしいまちづくり」

七つとして、「町民と行政の協働によるまちづくり」

を柱として、更なる町の発展に全力を傾けてまいり所存でございます。

これら7つの柱を中心とした事業を推進するにあたっては、「心のサービス」に重きを置き、目的が達成できるよう職員一丸となつて知恵を絞り、町民皆さんと協働して最少の経費で最大の効果が得られるよう意を配し、本年度予算を編成いたしました。

子育てにやさしいまちづくり

町の人口は昭和40年度をピークに減少傾向にあります。この人口減少は、箱根町だけではなく全国的に大きな問題でありますが、福祉、教育、環境などの行政施策について、改めて、そこに住まう皆さんの視点に立ち、「子育て支援・幼稚園と保育園のあり方、小中学校の統廃合、勤労者世代に対する居住空間のあり方、高齢者などの生きがい対策、福祉施設、生活環境整備」等々、町民の皆さんが安心して生活を送れるよう各世代に応じた施策を推進してまいります。

子育て支援対策についてであります。子育て支援策については、力が低下していると言われており、特に育児期の子どもと向き

そこで、安心して子育てができるよう小学校4年生までを対象とした小児医療費を助成し小児の健康向上と育児家庭を支援するほか、私設保育施設への補助、妊産婦や乳幼児の健康診査、さらに、育児不安の解消や育児を支援するため仙石原、宮城野湯本で子育て支援センターを運営するほか、保護者の就労や長期疾病などにより、保護者などの適切な保護を受けることのできない小学校低学年児童の健全な育成を図るための「放課後児童クラブ」を引き続き開設してまいります。制度面だけではなく誰もが安心して子育てができる環境の整備を推進してまいります。

次に、幼稚園、保育園の運営であります。仙石原地域で幼児学園として、子育てに対して大きな効果をあげていますので湯本地域・中央地域へも順次設置するための準備を検討してまいります。児童生徒の健全な育成を推進していくためには、家庭での躾、地域の見守り、学校教育の充実